

いじめ対策委員会 22条

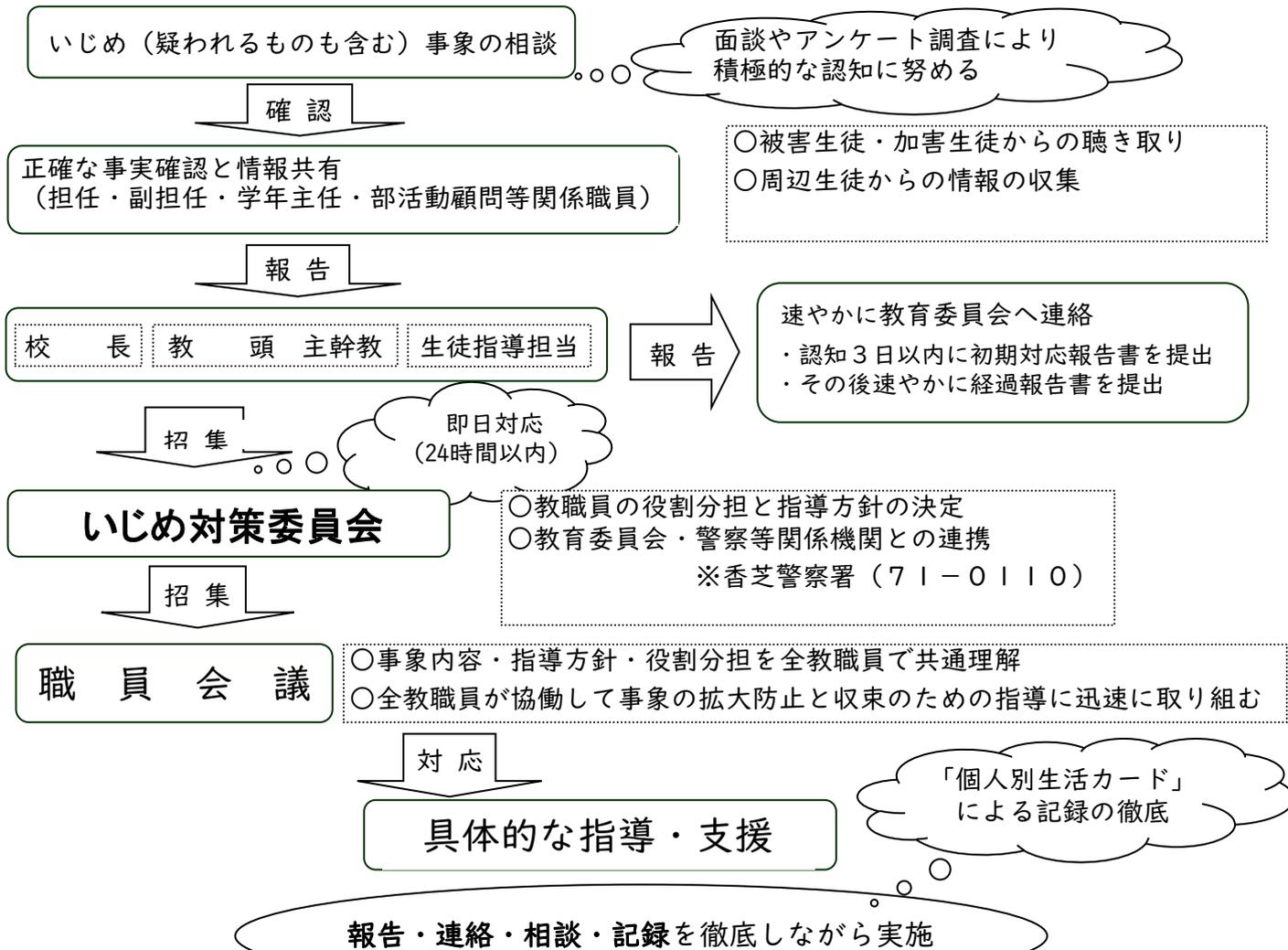
校長・教頭・主幹教諭・教務主任・
生徒指導主任・人権教育部長・教育相談担当教
員・
養護教諭・学年主任・各担任等

※必要に応じて、スクールカウンセラーや
スクールソーシャルワーカー等の外部専門

○学校におけるいじめの防止、いじめの早期発
見及びいじめへの対処等に関する措置を実効
的に行うため、組織的な対応を行うため中核と
なる組織を設置する。

○委員会を中心として、特定の教員がいじめ問
題を抱え込むことのないように、教職員全体で
共通理解を図り、報告・連絡・相談・記録を確
実にやり、学校全体で総合的ないじめ対策を
行う。

組織対応の流れ



被害者への支援	加害者への指導	友人・知人への指導・支援 (観衆・傍観者等)
<p>共感的に受け止める</p> <ul style="list-style-type: none"> ○伝えること <ul style="list-style-type: none"> ・学校として「何としても守る」という姿勢 ・プライバシーの保護 ○確認すること <ul style="list-style-type: none"> ・身体の被害状況（診断書） ・金品の被害状況 ・カウンセリングの必要性 ・警察への被害申告の意志 ○留意すること <ul style="list-style-type: none"> ・再発や潜在化 ・保護者への説明と保護者の考えの確認 	<p>毅然とした態度で</p> <ul style="list-style-type: none"> ○伝えること <ul style="list-style-type: none"> ・いじめは決して許されない行為であること ・いじめられた側の心の痛み ・自分の行為が重大な結果に繋がった ○確認すること <ul style="list-style-type: none"> ・カウンセリングの必要性 ○留意すること <ul style="list-style-type: none"> ・加害者の心理的背景（ストレス・自己存在感等） ・加害者が被害者になること ・保護者との連携 	<p>みんなを守るという姿勢</p> <ul style="list-style-type: none"> ○伝えること <ul style="list-style-type: none"> ・いじめられた側の心の痛み ・観衆や傍観者も加害者であること ・プライバシーの保護 ○確認すること <ul style="list-style-type: none"> ・カウンセリングの必要性 ○留意すること <ul style="list-style-type: none"> ・観衆や傍観者が被害者になること

再発防止のための保護者・地域、関係機関等と連携した見守り

重大事態への対応

- ・速やかに教育委員会に報告するとともに、必要に応じて警察等関係機関に連絡する。
- ・教育委員会の支援のもと、管理職を中心として学校全体で組織的に対応、迅速に事案解決に努める。
- ・事案により、当事者の同意を得た後、説明文書の配布や緊急の保護者会等の開催について検討する。
- ・マスコミ等の対応は管理職を窓口とする。